

平成 27 年度

富加町教育委員会事務の点検・評価報告書

(平成 28 年度実施)

富加町教育委員会

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条  
第1項の規定により、平成27年度富加町教育委員会  
事務の点検及び評価の報告書として本書を提出します。

平成28年 9月 7日

富加町教育委員会

## 平成27年度富加町教育委員会事務の点検・評価報告書

### はじめに

平成20年度の地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)の一部改正により、すべての教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされました。(同法第26条)。

これに基づき本町教育委員会では、教育委員会が定める教育行政に関する基本方針のもと、教育長及び事務局が執り行っている教育行政事務について、学校教育を除いた事業を対象に教育委員会自らが事後に点検及び評価を行いました。

また、点検及び評価を行うにあたっては、客観性を確保するために評価の方法や結果について意見を聴取する機会として、有識者会議を開催し、教育主要施策8項目、39事務事業について評価をいただきました。

教育委員会としましては、この評価を本町の教育行政に役立て、さらには住民からの情報、ニーズも幅広く収集し、今後の事務の改善・充実を図ります。

### 点検及び評価の対象について

点検及び評価の対象とする事務事業は、点検及び評価を行う年度(実施年度の前年度の事務事業)の富加町教育委員会の教育計画等に定める施策に関する事務事業のうち、点検及び評価を行うことが必要と認める事務事業を対象としました。

### 評価結果の取扱いについて

教育委員会が行う事務事業の点検及び評価に関する結果を報告書にとりまとめ、毎年9月開会の町議会定例会に提出し公表するとともに、翌年度における施策、事業の改善等に役立てるものとします。

### 評価の方法等について

富加町教育委員会の教育計画等に定める施策に関する事務事業のうち、点検及び評価の対象事業を主要施策8項目39事業について、事務担当課で一次評価(内部評価)を行いました。

一次評価を行った事務事業について、有識者において二次評価を行いました。

また、有識者により評価を得た結果について、教育委員会において協議・議決をし、その結果を取りまとめた報告書を議会へ提出し、町民へ公表します。

### 外部評価有識者について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定の趣旨に基づき、事務事業の点検及び評価を行うにあたり、教育に関し学識を有する者、教育に関し識見を有する者により構成する有識者により、一次評価の結果について意見をいただきました。

#### ◇有識者名簿

氏名	帰属	部門	備考
小森明彦	富加小学校長	学校運営・学社連携	
西村公孝	双葉中学校長	学校運営・学社連携	
高垣浩規	富加町社会教育委員会長	社会教育全般	
村瀬孝	富加の青少年を育てる会会長	地域教育(青少年育成)	
井戸孝治	富加町民生委員協議会会長	一般有識者(学校地域支援)	
板津光子	NPO法人とみかのわか代表	一般有識者(生涯学習)	

### 【報告書の構成】

本報告書は、前記「評価の方法等について」に示した方法により決定した評価について、重点項目別に要約したものです。

評価では、対象事業を8項目に大分類し、それぞれの項目毎に細分類した重点項目を設定し、AからDまでの総合判定を行いました。

AからDまでの判定基準は次のとおりです。

- A：当初の目標が順調に達成されているもの（◎印で表示）
- B：当初の目標が概ね順調に達成されているもの（○印で表示）
- C：事業を実施したが、一部について課題があるもの（△印で表示）
- D：事業の進捗が順調でないもの（－印で表示）（事業の廃止を含みます）

### 重点項目の評価の結果

3年間の評価の結果は、次のとおりです。

判定	25年度	26年度	27年度
A	29	28	22
B	15	16	16
C	1	0	0
D	0	0	1
計	45	44	39

※ 教育計画の見直しにより、年度によって項目数が違うため合計は一致しません。

以上の結果から、平成27年度事業については、一部課題はあるものの、概ね順調に達成することができたといえます。A判定項目も含めて、これからの事業推進・改善に役立てていきます。

今後、法の趣旨に基づき、毎年度、点検・評価を実施することにより、施策の改善に反映させるとともに、事務事業の更なる推進に努めます。

## 平成27年度富加町教育委員会事務の点検・評価のまとめ

今回実施した教育委員会の権限に属する事務の点検・評価を重点項目別に要約しました。

### 1. 教育委員会の活動

#### 1-1 教育委員会の会議に関する事【評価：A】

年間12回（定例会11回、臨時会1回）の教育委員会議を開催し、教育行政に関する重要事項の審議・決定を行った。臨時会では平成28年度教職員人事について審議した。

#### 1-2 教育委員会規則の制定及び改廃に関する事【評価：-】

今年度は規則等の改正は無かった。

#### 1-3 教育委員会による視察、研修、参観に関する事【評価：A】

小中学校授業参観及び各種式典、行事等に参加し、教育現場の現状把握及び経営方針について指導・講評等を行った。

その他、県、地区主催による各種研究会、研修会等に参加したほか、各種スポーツ大会を参観し選手の激励を行うとともに、社会体育の現状を確認した。

### 2. 教育総務事務事業

#### 2-1 教育行政の総合的企画及び調整に関する事【評価：A】

教育行政の変化に対応した計画の樹立と、富加町教育新生プランの推進を図るため平成27年度の教育計画を策定した。また、教育行事の日程等の事前調整を行い、決定された事業を集約した「子育てカレンダー」を作成し、効率的な事業の推進を図った。

#### 2-2 教育機関の管理に関する事【評価：B】

各地区公民館及び郷土資料館に管理人を設置し、利用者へのサービス向上に努めるとともに、各施設を適正に管理した。

#### 2-3 教育施設等の設備の整備に関する事【評価：A】

ことばの教室移転に伴うトイレ改修工事、小学校校舎及び体育館の非構造部材の耐震化工事並びにB&G海洋センターに多目的トイレ新設工事を行った。また、郷土資料を始め各公民館等の維持修繕については、適宜不良箇所の改修を行った。

#### 2-4 教育の調査及び統計に関する事【評価：A】

地方教育費調査及び社会教育調査を実施したことにより、社会教育に係る経費と社会教育施設の状況のデータを的確に把握し報告した。

#### 2-5 教育関係団体への活動支援に関する事【評価：B】

学校教育関係団体及び社会教育団体等へ活動補助金等を交付し、各種団体の育成及び事業推進の向上に努めた。

## **2-6 英語指導助手の設置に関すること【評価：A】**

英語指導助手（ALT）が保育園、小中学校へ出向き、児童生徒の英語によるコミュニケーションの促進及び発達段階に相応した授業を実施した。

## **3. 小学校の運営、管理**

### **3-1 学校の施設に関すること【評価：A】**

良好な教育環境の保全を図るため、学校との緊密な連携をとりながら消防設備、電気設備等の保守点検等を行い、教育施設の適正な管理を保持した。

### **3-2 学校教育の振興に関すること【評価：A】**

教育委員による学校訪問等により、学校現場の実態を把握し、学校が抱える課題等について懇談を交え指導を行った。また、学校活動の支援として、生徒指導に関する事業及び特色ある教育活動推進事業の充実を図った。

### **3-3 児童の就学に関すること【評価：B】**

教育支援委員会を開催し、適正就学に対する指導・助言・教育相談を行い、特に特別支援教育が求められる児童生徒に対しては、特別支援奨励費を支給するなど、個別支援計画による細やかな支援を行った。また、通学路の安全対策として、学校安全サポーター及びついで見守り隊の方々により登下校の安全が確保された。ただし、見守り隊については高齢化などにより人員が不足している。

### **3-4 教職員、児童の福利厚生に関すること【評価：A】**

就学前の保育園児の健康診断をはじめ、在学児童及び教職員の健康診査を行い、教職員の健康の保持増進と児童の健康状態の把握に努めた。

### **3-5 学校教職員の研修に関すること【評価：A】**

教育事務所、教育研究所が示す各種研修計画に基づく校外研修への参加及び年4回の初任者研修を実施し、教職員の実践的指導力の向上に努めた。

### **3-6 就学指導に関すること【評価：A】**

教育支援委員会を開催し、障がいをもつ児童の就学指導の方向性について審議を行い、発達程度及び学習状況等をもとに、児童に適した就学指導の方法を決定した。

## **4. 家庭教育の重点と施策**

### **4-1 乳幼児から青少年まで各期の家庭教育を推進するリーダーの育成【評価：B】**

家庭教育学級の担当者やリーダーの方々に研修会に参加して頂き、他校の家庭教育学級の運営の様子について学ぶ機会を設けた。また、学習のテーマ「3つの実践項目」に沿った立案や運営方法についての指導を行った。

### **4-2 関係諸機関との連携を図った効率的・効果的な家庭教育学級の運営【評価：A】**

ネットワーク会議及び乳幼児連絡会において、気になる乳幼児・児童の様子について情報を提供することで、関係機関において情報を共有した。

### **4-3 どの保護者にも情報が伝えられる学級運営の工夫【評価：B】**

家庭教育学級の運営委員会を開催し、運営方法等のスタイルを検討し、魅力ある学級運営を目指した。情報提供の手段としてはマイタウン等による啓発に努める。

#### 4-4 子どもの読書活動の啓発と情報モラル教育の普及【評価：B】

読書サポーターズの会が中心となり、絵本作家による絵本ライブや読書コンテストなど特色ある活動を展開した。図書室の中庭などで乳幼児を対象に読み聞かせを行った。また、読み聞かせグループ「ぶっくぷく」が、毎月小学校で読み聞かせを実施した。

#### 4-5 子どもの基礎学力定着のための家庭学習支援【評価：B】

小学校での家庭学習を定着させるため、学習の方法やポイントの手引きとなるマニュアルを作成し、児童生徒、保護者に配布し活用に働きかけた。

#### 4-6 父親の家庭教育参画の啓発【評価：B】

各期の家庭教育学級において、父親が参加しやすい内容、形態、日時を工夫し3つの講座を開催した。初産の家庭には参加への啓発を行い、多くに父親に参加して頂くことができ、非常に良い体験になったという感想があった。また、マイタウン等に記事を盛り込み父親の参画を促す。

### 5. 青少年育成の重点と施策

#### 5-1 地域ぐるみで子育てを支援する社会環境づくり【評価：A】

富加の青少年を育てる会、スポーツ少年団、子ども会が連携し、町民ラジオ体操会やリーダーデイキャンプ等の各種行事を行った。クリーン作戦をはじめ、自治会が主催する行事への参加の呼びかけや、各種行事のPRを行っていく必要がある。

#### 5-2 青少年育成関係団体の指導者養成と主体的活動の支援【評価：A】

青少年育成推進指導員を中心に、「富加の青少年を育てる会」「子ども会育成連絡協議会」の連携と共通した活動目的を示し、効率的な運営が進められるように、指導、援助を行った。また、今年度は2名の推進員が増員となった。

#### 5-3 青少年の自立のために、目的を明確にした体験活動の展開【評価：B】

公民館講座として開設した中学生を対象としたボランティア講座では、絵本ライブや保育園夏祭り等において体験活動を行った。また、半布ヶ丘公園キャンプ場においてリーダーデイキャンプを実施した。

#### 5-4 青少年の健やかな育成を目指した学校との連携【評価：A】

地域育成部会、団体育成部会を開催し、地域の青少年健全育成について学校との共通理解を図ることができた。命のふれあい講座として中学校の家庭科の事業で、妊婦体験と妊婦さんとのふれあいの場を持ち、赤ちゃんとのふれあいの場では、小さな命について考える機会となった。

#### 5-5 情報モラルに関する啓発の充実 【評価：B】

地域育成部会においては、DVD 視聴による啓発を行うと共に、「ケイタイ・スマホの安全な使い方とトラブル事例に学ぶ対処方」のモラル研修を開催した。また、「いくせい」には研修会の内容を掲載し情報モラルの啓発を行った。

## 6. 公民館活動、文化振興の重点と施策

### 6-1 広域連携の良さを生かし公民館を中心とした自主的・自発的に学べる環境づくり【評価：A】

公民館講座22講座（子ども講座を含む）、マイ講座19講座を開催し、多数の方々に参加して頂いた。公民館利用登録団体は51団体あり、知識や趣味を生かした自主学习が定着しつつある。第22回を迎えたふれあいオンステージには14団体の出場があり、大勢の方に入場して頂いた。加盟団体の高齢化も進んでおり、今後は若者のグループの参加が期待される。

### 6-2 地域課題や今日的課題に対応する学習の場の提供【評価：A】

生涯学習アドバイザーは、3名の方が養成講座を受講され、資格を取得されました。認定者で立ち上げた生涯学習アドバイザーの会では、「楽学塾」を開講するなど精力的活動された。資料館サポーターの方々は夏休み子ども講座や歴史イベントのボランティアとして活動された。

### 6-3 地域の豊かな文化や自然にふれる体験の充実と郷土資料館の運営【評価：A】

資料館で開催した夏休みの講座は、企画段階から資料館サポーターに参加して頂いた。資料館で開催した「つちびな展・江戸の旅に出かけよう展」では多数の来館を得ることができた。定住自立圏共生ビジョン事業による歴史PRマンガ作成については、事前の調査が順調に実施できた。また、資料館に小学校3年生が授業で来館するなど、学校との連携もとることができた。その他には、町内の遺跡13箇所に標柱を設置し遺跡の周知を図った。

### 6-4 本の楽しさを伝える図書室の運営【評価：A】

新着本やお薦め本の陳列を工夫し、利用者が親しめる環境を整えた。また、幼児・児童のため絵本の購入を増やし親子で楽しめる図書室とした。利用者数は15,706人、貸出冊数は21,252冊で、貸出は前年度を上回った。読書サポーターズの会では、子ども朗読会や季節のお話会の活動や町民まつりでの読み聞かせ、絵本作家による絵本ライブの開催など、機会を捉えた読書活動の啓発を行った。また、小中学校との連携により「伝えたいわたしに1さつわたしの1文」のコンクールを開催した。

## 7. 社会体育の重点と施策

### 7-1 「町民一人1スポーツ」を目指した生涯スポーツの促進【評価：B】

各年代や性別に合わせた町民スポーツ大会等を実施した。また、スポーツ推進委員の年間活動事業として軽スポーツ教室（クロリティー）を開催し、スポーツ活動の推進を図った。

### 7-2 スポーツを通じた青少年の健全育成の推進【評価：B】

スポーツ少年団の交流活動として水泳大会とスポーツテストを実施した。合同のマリンスポーツ体験では、八百津町スポーツ少年団と交流した。また、指導者に対しては救命講習会を実施し、救命技術等の向上に努めた。子ども向けの水泳教室においては56名が参加者し泳力を養った。スポーツ少年団については団員確保に努める。

### 7-3 競技力の向上を目指した取り組みの充実【評価：B】

競技力の向上を図るため、加茂郡体育大会や可茂地区大会、加茂駅伝などの広域スポーツ大会に選手を派遣した。町体育協会では種目部ごとに大会を開催し、競技力の向上を高めた。今後も競技種目の強化を図り競技力の向上に努める。

#### **7-4 地域のふれあいを育むスポーツの促進【評価：B】**

ふれあいスポーツ活動の普及を図るため、町民スポーツ大会や軽スポーツ講習会を開催し、スポーツを通じて町民のふれあいの場を確保しました。また、MT夢クラブ21の冊子を全戸に配布し、団体紹介のPRを行った。

#### **7-5 社会体育を推進する環境の整備【評価：A】**

利用者の利便性を図るため、半布ヶ丘公園のグラウンド外周に外灯を設置した。また、B&G海洋センターには外からも利用出来る多目的トイレを新設した。半布ヶ丘公園内の清掃等については、シルバー人材センターに委託し、常時清潔な環境を整えた。

### **8. 人権教育の基本方針**

#### **8-1 家庭教育への支援【評価：A】**

青少年を守るつどいを家庭教育学級に位置づけ、人権に関わる講演を多くの方に聞いて頂いた。また、子育て支援センターでは、年間を通して子育てに関する相談を受け、母親の育児ストレスの軽減を図った。子育て支援拠点施設の整備に伴い、あゆみ教室を新設し、子どもの発達に応じた指導を実施した。

#### **8-2 地域社会における学習機会・啓発活動の充実【評価：B】**

富加小学校では「ひびきあいの日」や「絆の日」に命を大切に活動に取り組み、学校便等による啓発も行った。団体育成部会では共通指導事項（自らあいさつ返事はハイ）を決め、子ども会やスポーツ少年団で意識して取り組んだ。

#### **8-3 人権教育を行う指導者の育成・資質の向上【評価：A】**

青少年育成で取り組むべき課題の一つとして、情報モラルを重点に取り上げ、富加の青少年を育てる会では、ケータイ安全教室及びネットいじめを題材としたDVDを視聴した。

#### **8-4 いじめや体罰は許されない気風の醸成【評価：B】**

青少年を守るつどいを家庭教育学級の年間計画に位置づけ、命の大切さを考える機会を作ることができた。乳幼児学級と中学3年生を対象にした「命のバトンふれあい講座」は、命の大切さを考える上で意義のある講座となった。